

DF企業ガバナンス部会 第14期 第3回セミナー 「仮想通貨の現状と未来—国際的な動向も踏まえて—」

2018年11月14日(水) 14:00~16:00
に日本ビル12階セミナールーム12Aに於いて、麗澤
大学経済学部教授、**中島真志先生**(写真右)をお招きし
開催された。

参加者は50名で、講義の最後には活発な質疑応答が行
われた。また、出席者からは、具体的なデータ・事例を
用いながら、わかりやすく解説して頂き理解が深まった
と大変好評であった。



1. そもそもビットコインとは何か？

2008年に「**サトシ・ナカモト**」名義で論文が公表され、2009年1月に
初のコインが発行された。高度な暗号技術を用いて、インターネットを通じて
価値がやり取りされるが、物理的な存在(紙幣やコイン)がない。ビットコイ
ンは以下のような特徴を持っている。

- ① 中央に管理者がない
- ② 独自の通貨単位(BTC)を持つ
- ③ 発行主体がない
- ④ プルーフオブワークという難しい計算を行って最初に正解を求めた人に
報酬(リワード)として新たなビットコインが発行され(マイニングと
いう)、また安全性が確保される
- ⑤ 取引の確定までに時間がかかる
- ⑥ 発行上限がある(2,100万BTC)

2. ビットコインを支える不思議な仕組みとは？

ビットコインの受払いにはデジタル・ウォレットとビットコイン・アドレスが
必要である。

ビットコインを入手するには以下の3つの方法がある。

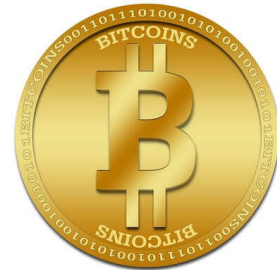
- ① 仮想通貨取引所で法定通貨と交換する
- ② 商品やサービスの対価として受け取る
- ③ 採掘(マイニング)する(複雑な計算処理を行い、その対価として受け
取る)

ウォレット間の通信にはP2P型(分散型)ネットワークを採用している。ビ
ットコインにはブロックチェーンという一種の帳簿の技術が使われている。2,

000件～3,000件の取引を1つのブロックにまとめ、ハッシュ値によりブロックの連続性と安全性（改ざんされ難い）が確保される。

3. 夢の通貨か、悪魔の通貨か

欧米の金融機関関係者の間では「ビットコインは悪魔の通貨」であり規制すべしとの論調だが、わが国のマスコミ・取引所の論調は「ビットコインは夢の通貨」であり通貨の未来を変えるすばらしい通貨だというのが多い。ビットコインには以下の多くの問題点があり、「夢の通貨」などとは言えない。



- ① 時々、盗まれたり、なくなったりする（ハッキングによる流出など）。
- ② 犯罪に使われる（危険ドラッグ取引、ランサムウェア、マネーロンダリングなど）。
- ③ 規制の抜け穴に使われる（特に中国）。
- ④ 取引量に限界がある（ビットコインの取引は全世界で1秒間に7件）
- ⑤ マイニングには大量のコンピュータが必要で、大量の電力が消費される（マイニングのための電力消費量は世界の39番目の国に匹敵）。地球環境にやさしくない。
- ⑥ 背景には反権力・反政府のリバタリアンの思想がある。
- ⑦ 支払い手段には使われておらず、投資用仮想資産となっている。
- ⑧ 報酬（リワード）の半減期があるため、経済合理性からマイニングが続く保証がない。

4. ビットコインの将来への懸念

ビットコインが誕生して以降、1BTCは10ドル以下で推移してきたが、2017年後半に異常に値上がりした。値動きは1600年代のチューリップバブルに似ている。ピーク時の価格は210万円までになった。ビットコインバブルというべきものである。チューリップバブルと異なるのは、価格が元に戻らず、現在も70万円前後で推移していることである。関係者が価格操作を行っている可能性がある。

ビットコインには、高い匿名性（犯罪やマネーロンダリングに利用）、高いボラティリティ（支払い手段や価値の保蔵手段として使えない）、本源的な価値がない（裏付けとなる資産がなく、利子・配当もない）、という3つの根本的な懸念があり、将来性については慎重に見ておくべきである。

以上